

生成AIリーガルテック特許紛争の深層：PI社 vs PF社 訴訟の全貌と知財戦略の転換点

パテント・インテグレーション（PI社）とPatentfield（PF社）の特許訴訟は、生成AIを特定の専門業務に適用する際の「アプリケーション・アーキテクチャ」がいかに強力な特許網（パテント・チケット）になり得るかを証明しました。

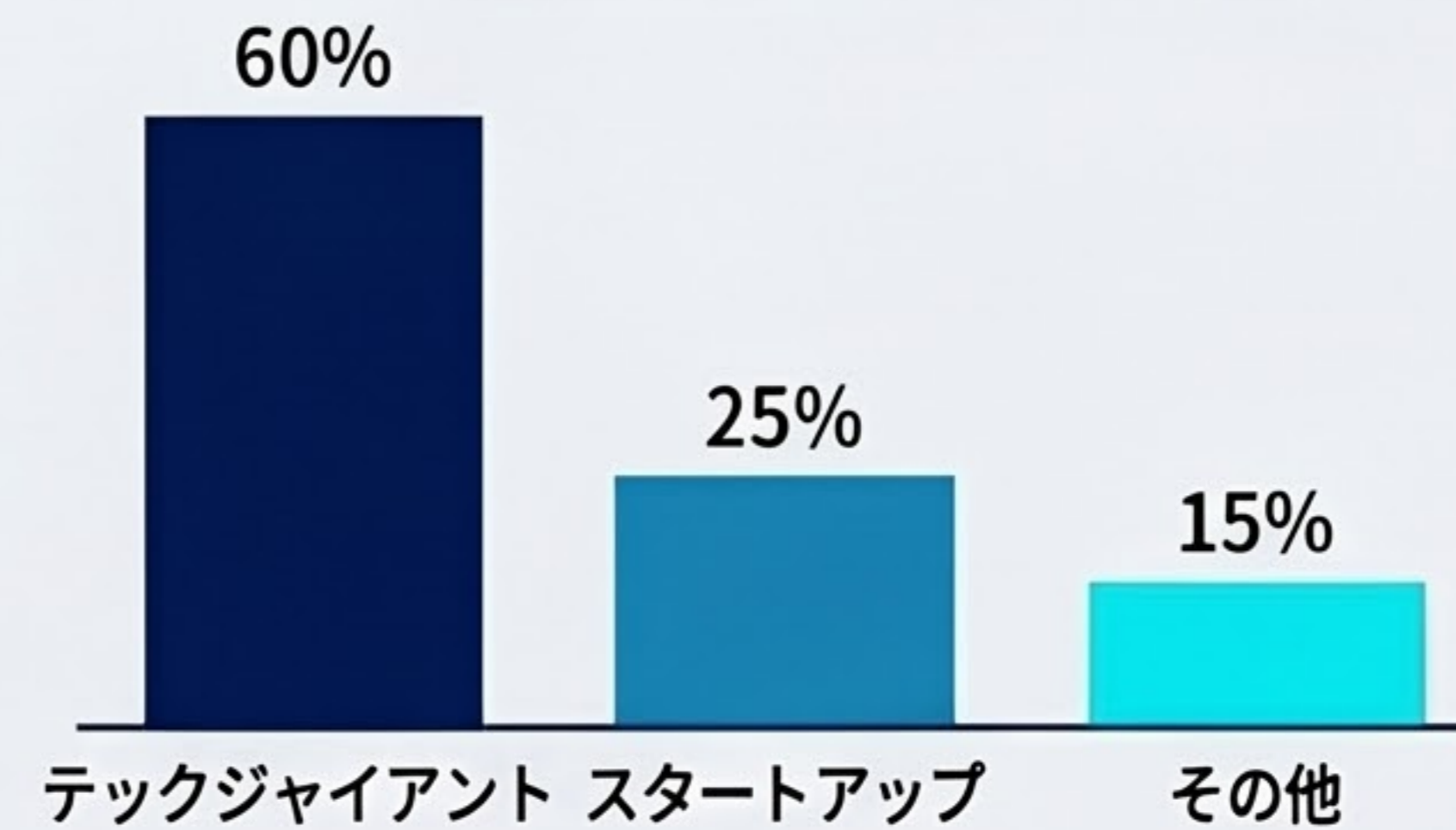


決着の鍵：「調停に代わる決定」（民事調停法17条）
2026年4月17日に全6件の訴訟が終結。判決で白黒つけず、裁判所の職権で妥当な解決案を提示する手法。特許の有効性を維持しつつ、実質的な和解を図る。

特許有効性維持
PF社事業継続

市場への影響と将来展望

AI特許訴訟における被告企業の属性内訳（グローバル統計）



⚠️ 「APIラッパー」型ビジネスの危機：単なるUIの工夫ではなく、データ処理フロー自体が特許化されるため、独自の迂回設計（デザインアラウンド）が必須となる。

和解金総額は過去3年で20億ドル（約3,000億円）を突破